



# 波紋



QRコードで  
すぐに接続

認定特定非営利活動法人  
教育活動総合サポートセンター  
広報紙「波紋」第19号  
発行人 山田 雅太  
題字デザイン・山口正勝

発行所 教育活動総合サポートセンター  
〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8  
TEL: 044-877-0553 FAX: 044-877-0980  
E-mail: support0731@luck.ocn.ne.jp  
ホームページ: http://www.kks-support.sakura.ne.jp/  
印刷 西桜印刷株式会社 TEL: 03-3568-2543

## 設立二十周年を前に

- NPO 法人として勢いのある組織づくりを
- 「虎は千里行って千里帰る」というような行動力を
- 自主研究の成果をもとに更なる実践を

本年度もどうぞよろしくお願ひいたします

認定特定非営利活動法人教育活動総合サポートセンター

理事長 山田 雅太

サポートセンターの設立から19年目を迎え、令和4年度がスタートしました。3月19日の理事会、ならびに臨時総会におきまして、前田博明前理事長の後任として理事長に選任されました山田雅太と申します。サポートセンター設立時の先人の意思を胸に刻み、微力ながら精一杯努めてまいりたいと思ひます。

新年度のスタートに当たり、それぞれの事業の目的を再確認し合い、組織をより機能的なものとして、認定NPO法人としての更なる充実を図っていききたいと思ひます。

設立当初からサポートセンターの諸活動にご支援を頂いている行政関係機関関係者、市内学校等教育機関に加え、私たちの願いである「子たちに力を！」に賛同する企業、賛助会員からのご支援・ご協力に改めて感謝申し上げます。今年度のスローガンの中に掲げた言葉「虎は千里行って千里帰る」は、勢いがあり、行動力にあふれていることを例えた言葉です。この言葉のもと、サポートセンターの創立20周年に向けて、今年か

ら所員一丸となって準備に取り組んでまいります。本年度もどうぞよろしくお願ひいたします。



## 事業計画

本年度も「子たちに力を！」の理念に基づき、定款に定められた各事業をより効果的に進めていきます。また、来年度の設立二十周年に向けて、準備を進めていきます。

- ① 教育・福祉に係る相談等支援に関する事業
  - ア 教育・福祉相談事業（自主）支援を必要とする子の保護者の会事業
  - ウ 神奈川県青少年センター「フリースペース等事業費補助」事業
- ② 適応指導に関する事業
  - ア 子ども包括支援事業（子どもサポート南野川）

- イ 地域における子ども支援と拠点づくり事業（子どもサポート旭町）
- ③ 学習支援に関する事業
  - ア 学習支援事業
    - イ 幸区地域課題対応事業（日本語支援 東小倉）
    - ウ 学習支援・居場所づくり事業 川崎区
      - エ 学習支援 川崎教室（学習支援 下平間教室）
      - オ 学習支援・居場所づくり事業 幸区（学習支援 日吉教室）
      - カ 夏休み特別講座（たのしいキッズセミナー）
      - キ 科学教育の普及・啓発助成事業（補助）
      - ク 地域の寺子屋事業（サイエンスキッズ）
      - ケ 地域の寺子屋事業（寺子屋 さぎぬま）
      - コ 地域の寺子屋事業（寺子屋 富士見つ子）
      - サ 地域の寺子屋事業（寺子屋 ハッピーターウン分教室）
    - ④ 特別支援教育に関する事業
      - ア 中原区子ども発達支援事業（中原区保護者ミーティング）
  - ⑤ 体験活動等に関する事業
    - ア ふれあい体験事業（自主）
    - イ 適応指導教室あさお体験広場に係る運営管理業務（のびのびファーム）
  - ⑥ 研修等に関する事業
    - ア 自主研究（自主）
  - ⑦ 青少年の健全育成を図るための環境整備に関する事業
    - ア 臨時的任用教員研修等指導員配置事業
    - イ 教育活動サポーター配置事業
    - ウ 特別支援教育サポーター事業
    - エ 営繕業務委託
  - ⑧ 講演会等の企画運営に関する事業
    - ア 文化講演会事業（自主）
  - ⑨ 文化・スポーツ活動推進に関する事業
    - ア 大山街道ふるさと館管理運営業務（共同運営）（海老沢）



### 子たちに力を

明るく 豊かな 社会の実現に寄与する

認定NPO法人 教育活動総合サポートセンター

「川崎教育活動」で検索！

# 子どもの安心感の意義を考える

## 不登校の子どもの支援実践事例を通して

昨年度まで4年間、子どもの「不安」について研究を進めてきました。今年度はこれを受けて、「子どもの安心感」に焦点を当てることとしました。子どもの安心をどのようにして広げられるか、安心が子どもに何をもたらすかを考えるのが目的です。

### 令和3年度自主研究

- A 自分のペースで学習できること
- B 得意なことや特性が認められたこと
- C スタッフや他の通所者との人間関係が安心感につながった例
- D 保護者との連携が安心感につながった例

次は、研究部員が持ち寄った事例を分類した結果です。

この中で最も多かった事例がCで、スタッフ自身が最も配慮していることでした。研究を通して、子どもにとって、安心感がいかに大事かがわかりました。「子どもサポート」が、より安心できる居場所となるよう、今後も努めていきたいと思えます。(齋藤)

### 研究報告会から

今年度は、コロナウイルスの影響で残念ながら、開催を中止と致しました。直前の中止決定で、ご参加を予定していた方々には、大変ご迷惑をおかけすることになりました。研究は、岡田守弘横浜国立大学



★不登校や学習不振などに悩む子ども本人やその保護者が抱えている困り感、不安などについて、経験豊かな相談担当者が一緒に考え、解決に向けて支援しています。対象者は、小・中学生を中心に、その保護者、学校関係者などです。学習支援については、担当者と連絡を取りながら、個別に学習支援を行っています。相談や学習支援を希望される

### 教育相談案内

044-877-0553

★「支援を必要とする子の保護者の会」を、開催しています。保護者同士で情報交換をしたり、体験者から話を聞いたりする場を、今年度も計画しています。詳細は当サポートセンターのホームページをご覧ください。(井上)

名譽教授のご指導、ご助言のもとに行いました。研究報告会は、研究内容の報告に加え、不登校経験者や不登校の子をもつ保護者の体験談が語られる予定でした。ご参加ご予約の皆様方には、研究冊子をお送りさせていただき、研究報告に代えさせていただきます。今年度の研究は、「安心感」をテーマにしました。当サポートセンターは、子どもが安心していられる場所であることを大事にしています。子どもが通所していることは安心していただくとらえ

ました。通所の事例から、スタッフと子どもとの関わりが、安心感につながると思われる事例を抽出しました。冊子には12事例を掲載し、考察しました。直接ご感想やご助言をいただく場がなかったことは残念です。冊子をお送りした方から、「研究報告書の具体的な指導事例を参

考にして対応を考えていきたいと思えます」というご感想を、お寄せいただきました。(渡辺)



### 大山街道ふるさと館

令和3年度、その時々の新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ各事業を計画していきます。

企画展は年4回。記念講演会とふるさと探究講座を各3回。街道学習講座は春と秋の各3回、ふるさとまち歩き講座も2回実施します。また、小学生に向けて子ども探検クラブや出前授業を、小中学生のふるさと発見講座、夏休みキッズワークショップ等、地域学習の支援と充実を図ります。

春と秋(開館30周年記念)、冬の館まつり、ぶらり散歩やまちのマイスター体験講座も地域の協力を得て行うとともに、市民ミュージアムとの連携も考慮して、多様な展示と広報の充実をはかっていきます。(石川)

### 臨時的任用等教員研修指導員配置

平成30年度より教職員の資質向上の一環として臨時的任用教員に対して研修を行うようになり5年目を迎えるようとしております。初めて採用された臨任者と中学校での一人配置の初任者(正規職員)を巡回の基本対象とし、また学校長からの要請により、経験のある臨任者や非常勤講師に対しても本研修が適用され、幅広い研修として実施しております。

指導員が学校へ伺い、授業を見た後、様々な視点から研修者に対して指導・助言を行っています。研修の機会が少ない臨任者にとって非常に有効な研修となっております。(前川)

### 学校サポーター配置

川崎市立小・中・高等学校の指導補助者(サポーター)に関わる事務や研修を行う、川崎市教育委員会からの委託事業です。

大学生を中心に、教員経験者、地域の協力者の約700人の方々が、様々な教育活動や特別支援教育のサポーターとして、市内の小・中学校・高等学校に配置され、それぞれの学校の状況に応じた支援活動に努めています。

各学校からは、サポーターへの感謝とともに、活動に大きな期待をいただいています。(吉田)

### のびのびファーム

ゆうゆう広場あさお敷地内にある体験農園「のびのびファーム」活用の総合教育センターからの委託事業です。

農業ボランティアの方々の指導の下、近隣の小学校2校と中学校支援級の子どもたちが、ジャガイモ・サツマイモ・大根などの種まき・植え付けと収穫など食育教育の一環として年間を通して学んでいます。天候により野菜の生育は左右されますが、昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のため一部活動が中止になりましたが、収穫体験は実施することができ、子どもたちは大喜びでした。(前田高)

# 学ぶ楽しさ わかる喜び

## 元気いっぱいの子どもたち

### 楽しいサポートセンター

わたしは、サポートセンターに  
くる前から、楽しみにしていまし  
た。おにいちやんが行っていたか  
らです。

算数の勉強をしています。ひと  
りで計算ができるようになりました。  
せいちようできて楽しいです。  
計算ができるのは、うれしいです。  
もっともっと勉強したいです。

ことばの勉強もしています。す  
きな外国語をおぼえるのはとく  
いです。もっとできるように  
なつて、  
大学にも行きたいです。  
(小3 E・A)

### こどもサポート宮ノ下

「こどもサポート宮ノ下」  
は、サポートセンター開設  
以来、不登校など支援を必  
要とする子どもへの学習支援  
や保護者の相談活動が続け  
てきました。子どもの気持  
ちに寄り添いながら一対一  
で学習支援を行い、安心し  
て過ごせる居場所となるよ  
う努めています。人との関  
わりが希薄になりがちな昨  
今ですが、支援者との交流  
も子どもを支える大きな力  
になっています。コロナ感  
染予防に気をつけながらも  
人との関わりを大切にした  
支援を続けています。

(保崎)

### 将来の仕事

ぼくは将来、接客業につきたい  
です。理由は、「いらつしやいま  
せ」とか「何にしますか」など  
言うのがおもしろいからです。仕  
事で知らない人と話すのは、自信  
があります。学校では人見知りだ  
けど、本当は話すのがとくいです。  
バイトができるようになったら、  
インドカレー屋で働く予定です。

初めて会う人の集まりで自己紹介  
をする時、「最初が肝心」と母に  
言われました。ぼくもそう思うの  
で、バイトの時も、初めの挨拶を  
元気よくやりたいと思います。  
(中2 T・R)

### 楽しく気軽に勉強が

サポートセンターは、私の中で  
勉強の理解が早く楽しくでき、勉  
強の理解が早く楽しくでき、勉

強するならここしかないと思える  
ところ。先生も優しく、自分  
のペースで勉強ができます。  
私は、小学校2年の時に不登校  
になりました。最初は「勉強が遅  
れたらどうしよう」と思いまし  
たが、今では、追いつくどころか  
先に進んでいます。遅れているも  
のがありますが、楽しくできれば  
いいかなと思っています。  
先生とのちよつとした世間話も  
でき、気楽に勉強できるのが、サ  
ポートセンターの良い所です。  
(小4 M・S)

### サポートセンターの出会い

学校に行けなくなつてから、毎  
日が不安でしかなかった。中  
学を本当に卒業できるのか、高校  
に行けるのか、とずっと不安でし  
た。学校の先生から、サポートセ  
ンターを教えてもらうまでは、  
ここでいろいろなことを教えても  
らいました。勉強も前よりわかり  
やすく楽しかったです。もっと早  
くにこの場所を知りたかったです。

中学3年生から数学も教えても  
らうようになりました。1年間で  
3年分の勉強は大変でしたが、わ  
かりやすく教えてもらったので良  
かったです。勉強を続ける機会を  
与えてもらえて感謝しています。  
(中3 I・S)

### サポートセンターとの繋がり

僕は小学校6年生の時に病気に  
なり、体調を崩してしまいました。  
学校に通えなくなり、中学1年生  
の夏からサポートセンターに理科  
と英語で通い始めました。  
最初は休みがちで、入退院もあ  
りましたが、先生方は、体調があ  
まり良くない時も優しく丁寧な教  
えてくれました。

この空間がとて好きです。高  
校も自分に合う所を見つけられま  
した。今では、高校生活も楽し  
みです。  
サポートセンターの先生達には  
感謝しかありません。この場所に  
出会えてよかったです。  
(中3 U・A)

### 自分の力で進む

小学校低学年から登校や学校に  
抵抗感がある息子は、中2の秋頃  
から、苛々しながらも「現状を変え  
たい！」という前向きな気持ちと  
行動を表すことが増えてきました。  
私は地道に集めてきた情報の中  
から、サポートセンターを思い出  
し、親子で見学し、息子自身が中2  
の冬から利用する事を決めました。  
息子は中3になつても進路決定  
に向けてなかなか行動せず、私は  
途方に暮れる事がありました。が、  
どうにか不登校相談会や学校説明  
会に親子で参加して、一緒に情報  
収集し、息子自身で志望校を決め  
ました。高校合格を目指し、サポ  
ートセンターで過去の入試問題、  
学校で面接練習に頑張つて取り組  
んでいます。

我が家の歩む道は、遠回りのデ  
コボコ道かもしれませんが、様々  
な場所や人に支えられ、たとえ時  
間がかかっても自分の力で進む息  
子には、大きな成長を感じていま  
す。  
(保護者 M・K)

### 著作権…ひっかかりました



作画 ひじり(小4)

### 学習支援・居場所づくり

平成24年4月、健康福祉局に生活保護・自立支援室が創設され、「子どもの学習支援・居場所づくり事業」が始まりました。生活困窮世帯の子どもたちへの学習支援を行うことで、高校進学を支援し、健全な学校生活を送り、卒業後も大学進学や就労すること、経済的に安定した生活を送る、「貧困の連鎖」を防止することを目的として計画された事業です。各教室に通う中学生が目標をもって学習に取り組み、希望する高校に進学できるように学習支援を行っています。

対象は川崎市在住の生活保護世帯等の中学生でした。令和元年6月から新

公立高校	全日制	22人
	定時制	4人
	通信制	
	その他	
	小計	26人
私立高校	全日制	4人
	定時制	
	通信制	1人
	その他	
小計	5人	
その他	(未定)	1人
合計		32人

に小学生を対象にした教室が開設され、さらに一人親家庭の中学生も対象になりました。今年度は、昨年度と同様に川崎区で川崎教室、幸区で幸教室と日吉教室の3教室を開設しています。各教室では、コーディネーター、学習支援専門員(教員OB)を中心に、学習サポーター(教員OBや市民、大学生等)が子どもたちの学習支援にあたっています。

令和3年度の中学3年生の進路状況は次のとおりです。(渡邊和)

### こどもサポート旭町

「こどもサポート旭町」には子どもたちがつけてくれた愛称があります。「STEP&GO」です。不登校や引きこもりの子どもたちが安心して過ごせる居場所であり、自信をもって巣立っていきける場所であることを目指して11年前に川崎区の委託を受けて開設しました。年々、利用者が増え、令和3年度もたくさんのお小・中学生、高校生(相談のみ)が利用しました。週4日(月火水木)10時~16時、学習、スポーツ、ゲーム、調理、園芸、読書、茶道など、旭町こども文化センター3階で楽しく活動しています。(小島)

### こどもサポート南野川

「こどもサポート南野川」は、不登校や引きこもりの子どもたちの居場所として開設から13年間、子どもたち自らが一歩踏み出す事ができるようにと応援してきました。自分で決める力は大切です。目標を持って学習を頑張る子、畑の作業を楽しむ子、収穫した野菜で調理に挑戦する子、ものづくりで力を発揮する子、ゲームや卓球で人との関わりを学ぶ子。その内容ややり方も十人十色。自分が選択した活動を通して、ゆつくり力をつけて、自信や心の安定を取り戻していくようです。緑豊かな自然も、来所する子どもたちに寄り添い励ましてくれます。(前田純)

### 地域の寺子屋

平成26年「子どもたちが夢や希望を持つて前向きに生きて欲しい」という市長の熱い思いを受け、寺子屋事業がスタートしました。

①設置目的

- ・子どもたちに様々な学習機会を提供することにより、学力向上や豊かな人間性の形成を図ります。
- ・地域ぐるみで児童生徒の教育及び学習をサポートする仕組みを作ることに、地域の教育力の向上を図ります。
- ・シニア世代をはじめとする地域人材の知識及び経験を生かして、様々な世代で学ぶ生涯学習の拠点をつくれます。

### 日本語支援 東小倉

日本語支援東小倉は、外国につながる子どもたちの居場所となり、学習面精神面を支援しようと、2012年に幸区の委託を受けて開設されました。

昨年度の登録者は22人で、中国・パラグアイ・バングラデシュにつながる子どもたちで、小学生13人、中学生9人でした。毎週水曜日の午後、東小倉の教室で市民サポーターと共に子ども一人ひとりのニーズに応じた対応を心がけています。子ども・保護者・スタッフ全員で楽しい時間を共有できるように活動も取り入れています。(堤)

### たのしいキッズセミナー

キッズセミナーは、夏休みに発展学習、体験学習、実験などを取り入れた公開講座です。4日間午前と午後、21講座が開催され、延べ700人余りの児童が参加しました。今年度も新型コロナウイルス感染症防止のためマスクの着用、密にならない会場設計など感染防止対策を徹底して実施しました。楽しい国語・チャレンジ算数、おもしろ科学、楽しい英会話遊び、キッズパソコンなど全ての講座が実施されました。子どもたちにとっても皆と関わり合いながら楽しく充実した講座となりました。参観の皆様も子どもたちの学びの姿を見て、笑顔があふれていました。(秋場)

### サイエンスキッズ

サイエンスキッズの活動は、今年度で17年目になります。昨年度の出前科学教室は、感染症拡大防止のため、一校のみの実施となりました。参加予定者全員が出席され、とても楽しいとの感想を頂きました。

キッズセミナーと冬のサイエンスキッズでは、延べ285人の参加がありました。「磁石とモーターで回る花を作ろう」など、新開発の題材も取り入れた活動となりました。参加された皆さんの笑顔に励まされて、今年度も、子どもたちと一緒に、自然の事物・現象を考えつつ、楽しい物づくりに取り組みます。(鈴木)

### 編集後記

令和4年度がスタートしました。国内や世界では不安なことがますます多くなってきました。コロナ禍はいつになったら収まるのか。戦争や紛争はいつまで続くのか。地球環境の問題は良い方向へ進んでいるのか。そんな社会の中で子どもたちは成長していきます。サポーターセンターの役割は子どもたちの不安に寄り添い、自信を持って自分の道を進んでいくことができるように支援することであると思います。

私たちは、多方面から総力を挙げて子どもたちへ支援していくことをあらためて確認したいと思います。(海老沢)



ねて実践して参りました。(藤田)